

(北名古屋市)

市町村の 基本情報	学校数	小学校 10 校、中学校 6 校、特別支援学校 0 校		
	地域学校協働活動推進員等の配置状況	統括的な地域学校協働活動推進員	1 人	
		地域学校協働活動推進員	23 人	
		統括コーディネーター	0 人	
		地域コーディネーター	0 人	
	CS 及び地域学校協働本部設置状況	CS を導入している学校数	小 10 校	中 6 校
地域学校協働本部がカバーしている学校数		小 10 校	中 6 校	



(活動の実際)

(活動内容)

- ・学習支援—読み聞かせや水泳の見守り、ミシン補助、工作補助、校外学習の引率・補助ボランティアなど
- ・環境整備—図書館整備、園芸・除草活動など
- ・地域連携—登下校時の安全指導、ボランティアによる草取り・ごみ拾い、運動会での受付・交通整理・見守りボランティア、ぞうきん作りボランティアなど

(活動で意識していること)

- ・子供たちの地域の顔見知りをつくり、困った時に助け合える環境、居場所をつくる。
- ・大人がサポートし過ぎないように心掛け、除草活動、清掃活動その他全てが「学びの場」であることを忘れないようにしている。
- ・子供たちが主体的に参加できるきっかけをつくり、自ら動く行動力、褒められたり認められたりすることで得られる自己有用感・自己肯定感を高められる場をつくる。

(地域学校協働活動推進員の当日の動き)

- ①参加ボランティアに当日の流れの説明、役割分担を決める。
- ②地域学校協働活動推進員も活動に同行し、活動指示を行う。
- ③活動後、ボランティアと担当教員にボランティア活動内容について話を聞く。
- ④教頭に報告し、今度の活動に生かす。
- ⑤関係各所にお礼の連絡を行う。

(◎成果と●課題)

- ◎子供たちからの「ありがとう」という言葉がボランティアの活力になっている。
- ◎活動を通じて先生と地域の人が顔なじみとなり、風通しのよい良好な関係を築いている。
- ◎多数の職員が必要となる科目の授業（水泳・ミシン・工作等の授業）にボランティアの方に入ってもらうことで、担当が安心して授業を行うことができた（他の職員がヘルプで入ることがなくなった）。
- ◎各学校における学校運営協議会でも、学校側が今困っていることや助けをお願いしたいことなどの意見が活発に出ており、地域住民と学校との連携強化が図られ、地域全体で子供を育てようとする意識が高まっている。
- 各学校の地域学校協働活動推進員、読み聞かせ等のボランティアをされている方が悩みの共有や情報交換ができるよう、各学校のボランティアさんが交流できるような研修会を定期的開催するよう努める。

(関係者の声)

- ・私たちは学校の応援団だから、困ったときはいつでも言ってください。これからも学校と相談しながら、地域で支援できることをやっていきたい。(ボランティア)
- ・運動会に向けて、CSボランティアの方と地域の方が除草作業を行ってくれたおかげで、学校がとてもきれいになりました。本当にありがとうございました。(教員)